

## 平成26年度全国学力・学習状況調査の結果について（お知らせ）

平成26年度全国学力・学習状況調査の結果については、**児童生徒が身に付けるべき学力の一部であること**などに留意して分析を進め、このたび、名寄市小・中学校の児童生徒の学力や学習状況の傾向をまとめることができました。

つきましては、明らかになった課題を克服し、さらに児童生徒の学習改善や学習意欲の向上を図るために、学力や学習状況の傾向及び指導の改善策などについてお知らせいたしますので、皆様のご理解とご協力をいただきますようお願い申し上げます。

### 1 小学校の教科に関する調査結果の概要について

※ 「全国」とは全国の平均正答率のことです。

□・漢数字・（ ）・記号は設問番号を示しており、調査問題は国立教育政策研究所のホームページで見ることができます。

また、改善策の例については、国立教育政策研究所の解説資料から一部を抜粋して掲載しています。

**国語A** ～ 基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題

#### <全国と比べて成果が見られた設問>

- 1一（3）学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読む。〔設問の概要：勢いよく走り出す〕
- 2一 故事成語の意味と使い方を理解する。〔設問の概要：「五十歩百歩」の使い方として適切なものを選択する〕
- 3 情景描写の効果を捉える。
- 6二 仮定の表現として、適切なものを捉える。

#### <全国と比べて課題が見られた設問>

- 6一 複数の事柄を並列の関係で書く。〔設問の概要：「～たり、…たり」という表現に直して書く〕
- 8 国語辞典を使って、言葉の意味と使い方を理解する。〔設問の概要：小学生が運動をする機会の増加をはかる必要がある〕

#### 【改善策の例】

○語句の意味を正しく捉えることや、指示語や接続語の役割について理解することができるように指導することが大切である。

・並列の表現→「と」、「や」、「～たり、…たり」、「また」 など

○同音異義や同訓異義の漢字を使って複数の短い文を書くなどの学習を積み重ねるように指導することが考えられる。その際、国語辞典だけでなく、漢字辞典も使って、漢字そのものの意味や成り立ちについて着目するように指導することが効果的である。

**国語 B** ～ 基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題

<全国と比べて成果が見られた設問>

- 1 二 質問の意図を捉える。
- 3 二 詩の解釈における着眼点の違いを捉える。

<全国と比べて課題が見られた設問>

- 1 一 目的に応じて、話合いの観点を整理する。
- 2 二 分かったことや疑問に思ったことを整理し、それらを関係付けながらまとめて書く。
- 3 三 二つの詩を比べて読み、自分の考えを書く。

**【改善策の例】**

- 司会の能力を高めるためには、司会の具体的な話し方やまとめ方を学習する場を設けることが考えられる。その際、モデルとなる討論会の様子を動画で視聴したり、話合いの後に司会の進行について良かった点や改善点などを交流し合ったりするように指導することが効果的である。また、多くの児童が司会を経験することも重要である。
- 疑問に思ったことや分かったことなどを、付箋を使って分類することで、最初の疑問がどのように解決されたのか、新しい疑問がどのような事実から生まれたのかなど、課題解決の過程を振り返ることができるように指導することが考えられる。その際、疑問に思ったこと、分かったことなどを色の違う付箋に書き分けることで、事実と感想、意見などを区別して捉えることができるように指導することが効果的である。
- 詩を読む目的を明確にして、感想、解説、推薦などの文章として考えをまとめ、発表し合う場面を設けることが考えられる。その際、互いに考えたことがどのように共通したり相違したりしているかなどを明らかにしながら、自分の考えを広げたり深めたりすることが大切である。

**算数 A** ～ 基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題

<全国と比べて成果が見られた設問>

- 1 (2) 被乗数に空位のある整数の乗法の計算をすることができる。〔設問の概要： $903 \times 6$ 〕
- 2 (1) 割合が1より大きい場合、比較量の求め方が(基準量)×(割合)になることを理解している。〔設問の概要：示された図を基に、赤いテープの長さが白いテープの長さ(80cm)の1.2倍に当たるときの赤いテープの長さを求める式を選ぶ〕
- 3 分数の相等及び大小について理解している。
- 4 (2) 単位量当たりの大きさの求め方を理解している。〔設問の概要： $8 \text{ m}^2$ に16人いるAの部屋について、 $1 \text{ m}^2$ 当たりの人数を求める式を書く〕

<全国と比べて課題が見られた設問>

- 1 (3) 小数第1位までの減法の計算をすることができる。〔設問の概要：9 - 0.8〕
- 6 作図に用いられている図形の約束や性質を理解している。〔設問の概要：コンパスを使った平行四辺形のかき方について、用いられている平行四辺形の特徴を選ぶ〕
- 7 立体図形とその見取図の辺や面のつながりや位置関係について理解している。

**【改善策の例】**

- 計算の技能の習熟や維持を図るために、児童の学習状況をみながら適度の繰り返し練習の機会を設けることが大切である。また、当該学年以降の学年においても必要に応じて繰り返し指導し、基礎的・基本的な計算の技能の習熟や維持を図ることが大切である。
- 作図の指導においては、単に作図の手順を形式的に指導するだけでなく、その作図が図形のどのような約束や性質を使っているのかを考え、それを基に作図できるようにすることが大切である。
- 立体図形と見取図と展開図とを互いに関連付ける活動を取り入れることが考えられる。また、見取図から展開図をかいたり、展開図から立体図形を想像して見取図をかいたりすることができるようにすることも考えられる。

**算数B** ～ 基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題

<全国と比べて成果が見られた設問>

- 2 (2) 最大値に着目して、棒グラフの棒を枠の中に表すことができない理由を記述できる。
- 4 (1) 繰り返されるリズムの規則性(周期)を見だし、それを基に小節数を求めることができる。
- 5 (2) 示された情報を解釈し、基準量の1.5倍の長さを表している図を選択することができる。

<全国と比べて課題が見られた設問>

- 1 (2) 示された計算のきまりを基に、異なる数値の場合でも工夫して計算する方法を記述できる。〔設問の概要： $37 \times 3 = 111$ を基に、 $37 \times 24 = 888$ になることを書く〕
- 3 (3) 示された情報を基に必要な量と残りの量の大小を判断し、その理由を記述できる。
- 4 (2) 二人のリズムが重なる部分を、公倍数に着目して記述できる。

**【改善策の例】**

- $37 \times 24 = 888$ の計算の工夫として、 $37 \times 3 = 111$ を基に、乗数の24を $3 \times 8$ とみて、 $37 \times 24 = (37 \times 3) \times 8$ と変形できることが大切である。指導に当たっては、24は $2 \times 12$ 、 $3 \times 8$ 、 $4 \times 6$ など、乗法による数の表現が多様にあることを確認し、どの数を用いると、より合理的、能率的に処理しているのかを話し合う活動を取り入れることも考えられる。

## 2 中学校の教科に関する調査結果の概要について

※ 「全国」とは全国の平均正答率のことです。

□・漢数字・( )・記号は設問番号を示しており、調査問題は国立教育政策研究所のホームページで見ることができます。

また、改善策の例については、国立教育政策研究所の解説資料から一部を抜粋して掲載しています。

### 国語A ～ 基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題

#### <全国と比べて成果が見られた設問>

- 2二 語句や文の使い方に注意して、伝えたい心情にふさわしい言葉に書き換える。〔設問の概要：仲直りができてうれしい主人公の気持ちを印象深く伝えるために書き換える〕
- 8三カ 語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う。〔設問の概要：あの人は、単刀直入にもの言う〕
- 8五1 歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む。〔設問の概要：まうけて〕

#### <全国と比べて課題が見られた設問>

- 8一 文脈に即して漢字を正しく書く。〔設問の概要：地域の人をショウタイする〕
- 8四 辞書を活用して、語句の意味を適切に書く。〔設問の概要：英気を養う〕

#### 【改善策の例】

- 既習の漢字を積極的に使用したり、知らない熟語の意味をその漢字の訓読みから推測したりする機会を意図的に授業に取り入れることが大切である。
- 多義的な語句について、辞書に掲載されている複数の意味や用法の中から文脈に合ったものを選んだり、見出し語にない語句について、語句を分けて調べたりするなどの学習活動が考えられる。

### 国語B ～ 基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題

#### <全国と比べて成果が見られた設問>

- 1一 表現の技法について理解する。
- 1三 文章の構成や表現の仕方などについて、根拠を明確にして自分の考えを書く。〔設問の概要：ノートを基に、標語から伝わってくる〈メッセージ〉と〈表現の工夫とその効果〉を書く〕
- 3一 本や文章から、目的に応じて必要な情報を読み取る。

<全国と比べて課題が見られた設問>

- 12 文章に表れているものの見方について、自分の考えをもつ。〔設問の概要：標語から伝わってくるメッセージを書く際に気を付けたこととして適切なものを選択する〕

【改善策の例】

○例えば、読書を促す標語であれば、大前提としてその標語がもつ「本を読もう」といったメッセージを捉えるだけでなく、本や読書のどのような魅力を取り上げ、どのような具体的なメッセージを伝えようとしているかを考えることが重要である。

**数学A** ～ 基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題

<全国と比べて成果が見られた設問>

- 3 (2) 分数を含む一元一次方程式を解くことができる。〔設問の概要： $(x - 1) / 3 = 2$ 〕
- 11 (1) 一次関数の変化の割合の意味を理解している。
- 11 (2) 一次関数  $y = ax + b$  について、 $a$  と  $b$  の値とグラフの特徴を関連付けて理解している。
- 12 連立二元一次方程式の解が、2直線の交点の座標として求められることを理解している。
- 13 度数分布表から相対度数を求めることができる。

<全国と比べて課題が見られた設問>

- 5 (4) 底面が合同で高さが等しい円柱と円錐の体積の関係について理解している。
- 10 (3) 与えられた式を基に、事象における2つの数量の関係が比例であることを判断することができる。〔設問の概要： $s = vt$ を基に、速さ  $v$  が一定のとき、時間  $t$  と道のり  $s$  の関係について、正しい記述を選ぶ〕

【改善策の例】

○柱体と錐体の体積の関係を実感を伴って理解できるようにするために、柱体の体積と錐体の体積との関係を予想し、その予想が正しいかどうかを、模型を用いた実験による測定を行って確かめる場面を設定することが考えられる。

○具体的な事象における数量の関係を表す式から、関数関係を読み取ることができるようにするために、数量の関係を表す式において、ある数量を定数とみたり変数とみたりして2つの数量の関係を調べ、その式の意味を捉える活動を取り入れることが考えられる。

**数学B** ～ 基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題

<全国と比べて成果が見られた設問>

- 2 (1) 与えられた説明の筋道を読み取り、式を適切に変形することで、その説明を完成することができる。〔設問の概要：2つの偶数の和は偶数になることの説明を完成するために、式  $2m + 2n$  を変形する〕

- ② (2) 事柄が成り立たない理由を説明する場面で、反例をあげることで、その説明を完成することができる。〔設問の概要：2つの偶数の積は8の倍数になるとは限らないことの説明を完成するために、予想が成り立たない例をあげ、その積を求める〕
- ③ (2) 事象を理想化・単純化して問題解決した結果を解釈し、数量の関係を数学的に説明することができる。
- ④ (1) 図形の性質を、構想を立てて証明することができる。
- ⑥ (2) グラフの特徴を事象に即して解釈し、結果を改善することができる。

#### <全国と比べて課題が見られた設問>

- ① (3) 事象を理想化・単純化し、その結果を数学的に解釈し、問題解決の方法を説明することができる。〔設問の概要：図形の性質を用いて、横断幕が木にまったく隠れない最も低い位置を求める方法を言葉や図で説明する〕

#### 【改善策の例】

○日常的な事象の問題について、数学を活用して解決できるようにするために、事象を理想化・単純化して図に表す活動を取り入れることが考えられる。

### 3 小学校の児童質問紙調査、中学校の生徒質問紙調査の結果の概要について

※ 「全国」とは全国の児童生徒が回答した割合のことです。  
 ( ) は質問番号を示しており、質問事項は国立教育政策研究所のホームページで見ることができます。

#### ◆ 小学校の児童質問紙調査の結果の概要について

##### <全国と比べて望ましい傾向を示した項目>

- (14) 学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をするか → 「1時間以上、2時間より少ない」という割合が高い。
- (24) 家で、学校の授業の復習をしているか → 「している」という割合が高い。
- (37) いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思うか → 「思う」という割合が高い。
- (45) 5年生までに受けた授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思うか → 「思う」という割合が高い。
- (51) 国語の勉強は大切だと思うか → 「思う」という割合が高い。
- (62) 算数の勉強は好きか → 「好き」という割合が高い。

### ＜全国と比べて努力を要する傾向を示した項目＞

- (6) 自分には、よいところがあると思うか。→「思う」という割合が低い。
- (12) 普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をするか。→「2時間以上」という割合が高い。
- (23) 家で、学校の授業の予習をしているか →「している」という割合が低い。
- (46) 400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思うか →「思う」という割合が高い。

### ◆ 中学校の生徒質問紙調査の結果の概要について

#### ＜全国と比べて望ましい傾向を示した項目＞

- (37) いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思うか →「思う」という割合が高い。
- (53) 読書は好きか →「好き」という割合が高い。
- (62) 数学の勉強は好きか →「好き」という割合が高い。
- (64) 数学の授業の内容はよく分かるか →「分かる」という割合が高い。
- (72) 今回の数学の問題について、解答を言葉や数、式を使って説明する問題があったが、最後まで解答を書こうと努力したか →「した」という割合が高い。

#### ＜全国と比べて努力を要する傾向を示した項目＞

- (12) 普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をするか。→「2時間以上」という割合が高い。
- (13) 普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメールインターネットをするか（携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除く）→「2時間以上」という割合が高い。
- (14) 学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をするか →「2時間以上」という割合が低い。
- (23) 家で、学校の授業の予習をしているか →「している」という割合が低い。
- (24) 家で、学校の授業の復習をしているか →「している」という割合が低い。

## 【小・中学生共通の改善策の例】

### ○児童生徒に自分のよさや可能性を実感させるために

- ・学校では、特別活動で、児童生徒一人一人のよさが発揮できる係活動や集会活動を仕組み、他の児童生徒とかかわりながら成長できる場を意図的につくります。
- ・学校では、児童生徒が職場体験などの体験活動を通じて学ぶことや働くことの意義を理解し、望ましい勤労観や職業観を身に付けることができるよう指導体制の充実を図ります。
- ・家庭では、大人にとって取るに足らないことでも、子どもの努力や成功を認め励まし、自信や有用感を育てるように働きかけてください。

### ○家庭学習の充実を図るために

- ・学校では、家庭学習の手引などを活用し、学年に応じた学習方法や学習時間の定着、1日の生活リズムの確立などについて指導します。
- ・家庭では、「早寝・早起き・朝ご飯」の取組や、テレビゲームをする時間、携帯電話などを使う時間を少なくする取組などを通して生活のリズムを整え、子どもが集中して学習できる環境づくりと子どもの努力を認め励ます声かけなどに努めてください。

## 4 学力向上の取組について

今年度の全国学力・学習状況調査の結果から、本市の児童生徒においては、各教科で基礎的・基本的な知識や技能の定着が図られている状況が見られるものの、①根拠を明らかにして考える、②物事を関連付けて考える、そして、③考えたことを、条件に応じて、まとめ・表す、といった力を身に付けさせることや、家庭での学習習慣の確立を図ることなどが継続的な課題となっています。

このような成果と課題を踏まえ、名寄市教育委員会では、授業改善と望ましい生活のリズムの定着を「車の両輪」と位置付け、名寄市教育改善プロジェクト委員会を中心として市内の小・中学校が一体となった総合的な学力向上の取組をさらに推進してまいります。

### 【主な重点】

- (1) 授業を効率的に進め、児童生徒の自ら学ぶ態度を養うため、すべての小・中学校で一貫した学習規律の確立を図ります。
- (2) 思考力、判断力、表現力等を育むために、言語に対する関心や理解を深め、言語に関する能力の育成を図る上で必要な言語環境を整え、発表や討議、ノート記述、レポート作成などの言語活動の充実を図ります。
- (3) 望ましい生活のリズムの定着を図り学習習慣を確立するために、「早寝・早起き・朝ご飯」運動を継続するとともに、授業の内容と関連付けた宿題を与え、予習－授業－復習のサイクルの確立を図ります。
- (4) 学習内容を確実に身に付けさせるために、個別指導やグループ別指導、繰り返し指導、学習内容の習熟の程度に応じた指導など指導方法や指導体制を工夫改善し、個に応じた指導の充実を図ります。